

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は後から後から困難な事が続きましたが、皆様方の大変なご協力を頂き、大過なく年を越すことが出来ました。皆様方のお蔭と心より感謝を申し上げます。

またこのFAX通信へも多くの方々が声を掛け、励まして下さりありがとうございました。

本年は昨年積み残された難問題をたくさん抱えての出発となりますが…

先日、東北の卒業生代表のW梶原裕太君の答辞の一節に、「これからはもっと辛い、悲しい事があっても天を恨まず、皆で助け合っていくことが私達の役目だと思って頑張って生きて参ります。」と言われ、強く胸を打たれました。悪い原因や理由をいくら数え、恨んでも解決にはなりません。

明治維新以来、日本はいくつもの破局に遭遇致しましたが、私達の先人達は見事に乗り越えてきました。それは日本の歴史と伝統が証明いたしております。

これらの経験を生かした日本の技術・能力からすればあと数年で先が見えて来ます。先日三陸から帰ってすぐ、九州小倉で第18代徳川恒孝氏とお会いしそのお話の中で「あの名君を言われた八代吉宗公も元禄、宝永の大地震、富士山の大噴火によって享保の大飢饉となった時、先ず儉約と質素を説き、お金のかからぬ町起こしをと考え、全国に桜を植えさせ、春は花見、夏はほおずき市、朝顔市、秋は菊まつり、紅葉狩りをすすめ、市民ににぎわいを取り戻させました。また一方では旅をすすめ、お伊勢参りを始めとして奈良、金平、養老の滝、善光寺、江の島、日光参りに江戸、京都見物と当時人口3千万人弱の頃に、東海道は2百万人の旅人が往来し、お伊勢参りは1日2千人と言われておりました…」と。

国家の品格の中で藤原正彦氏は、花見とか紅葉狩りなどは世界には類例がない、日本人だけが持つこの感性、情緒が日本人のすばらしい知性、才能を育てたと書かれております。

日経ビジネスでは今年は小売、飲食業が厳しい年になると予測しております。小倉に2泊して日中は下関、夜は小倉の町を見聞しました。

「坂の上の雲」で見た馬関戦争、平清盛の壇ノ浦の戦…こんなに狭い海峡で戦ったのかと百聞は一見に如かずでありました。

夜の小倉の町は何処の路地へ入っても、普通の飲食店の呼び込みがいっぱいで驚きました。千葉では見られない風景であり、千葉はまだまだ商売が甘いのかなぁ？と考えさせられました。徳川さんは「旅は景観と人情と食べ物です！」と言われましたが、食べ物はやはり千葉が一番だといつも思いながら帰ります。

大晦日、亀山の伊原さんから声がかかり、5人の仲間たちと「幸福の鐘を108つ」皆さんの幸福と繁栄を祈願して打って参りました。一生懸命やれば知恵が生まれ、中途半端なら愚痴となり、やる気がなければ言い訳となると言われます。

マグロの初セリを5600万円でとった奴は私の旧友…君津も潜在能力はいっぱいです。

今年も良き仲間達と笑顔を絶やさず、夢と誇りを持ってまた一年頑張ってください。

追伸…明日の賀詞交歓会に是非ご参加ください。お待ちしております。